

③
TAM

聖徒たちと歩む聖書
アダム その3

創世記4:1~26

「最初の殺人」

～アダムの子孫・カインとアベルとセツ～

【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
 - I. カインとアベル
 - II. カインの子孫たち
 - III. セツの誕生
 - IV. まとめと適用
- カインの道か セツの道か



【最初の天地の創造】 創世記1:1~2

- はじめに、神が天地を創造された。
- 最初の被造物サタンが墮落し、裁かれ、最初の天地である宇宙は、混沌と化した。
- 暗闇の世界を、聖霊が抱き、地上を再創造していく。

➡それが、6日間の天地創造。



世界の破壊は、
二段階で起こった！

天地創造 創世記1章1節

地の再創造(エデン)

創世記1章3〜2章3節

サタンの
墮落

人類の
墮落

キリストの十字架



最後のアダム
キリストの
← 再臨

キリストによる
← 最後の裁き

現在(教会時代)

千年王国(エデンの回復)

新天新地

黙示録21〜22章

【①「エデン契約」・最初の契約】

対象:最初の人アダム(人類代表として)

内容:地の祝福。人類の祝福。
人類の地の統治権。

■唯一の禁止命令:

...善悪の知識の木の実を食べるな。

目的:統治権をめぐる人類へのテスト。
一定期間、守れば合格!!

結果:サタンの誘惑に負け、
食べてしまった。



【②アダム契約】

対象: アダム・人類全体

内容: 罪の結果の呪い。楽園からの追放。

男は労働、女は出産の苦しみ。

霊的死&肉体的死

救いの啓示:

女の子孫として生まれるメシア

救いの原則:

血は血によってのみ贖われる。



【神と人との契約とは？】

- 神の法は、人の責任の範囲を限定し、人が、神に近づけるよう、導くもの。
⇒だから、神の法の本質は、恵み。
- 神は、エデン契約を破った人間と、すぐに、アダム契約を結ばれ、人の罪を贖う、メシアの到来を予告された。
- 人は、神との契約関係の中で守られ、導かれつつ、神の聖なる性質を学び、世界に対する神の計画を学んでいく。



I. カインとアベル

創世記4:1~16



【カインの誕生】 創世記 4:1

人は、その妻エバを知った。彼女はみごもってカインを産み、「私は、【主】によってひとりの男子を得た」と言った。

※カイン ...「形作る」という意味。

※直訳すると、

「私は男子を得た。ヤハウエ(主)を」
...エバは、この子が、約束された
「女の子孫(救い主)」だと考えた。



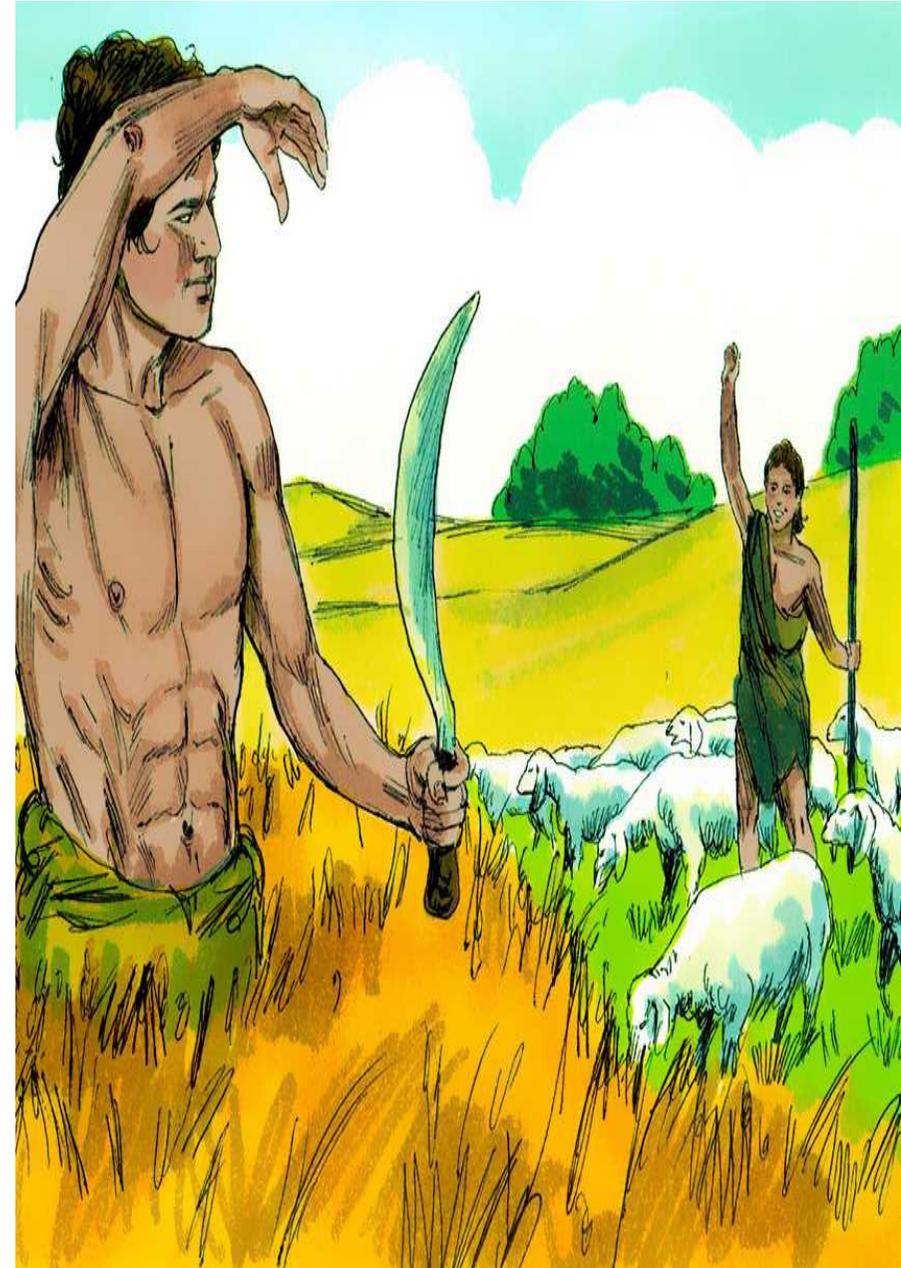
【アベルの誕生】創世記 4:2

彼女は、それからまた、弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。

※アベル ...「むなしさ、空虚」

カインは、「女の子孫(救い主)」
ではない、と分かった後の子!!

■カインの成長を通して、罪の影響の
大きさを実感させられたのだろう。

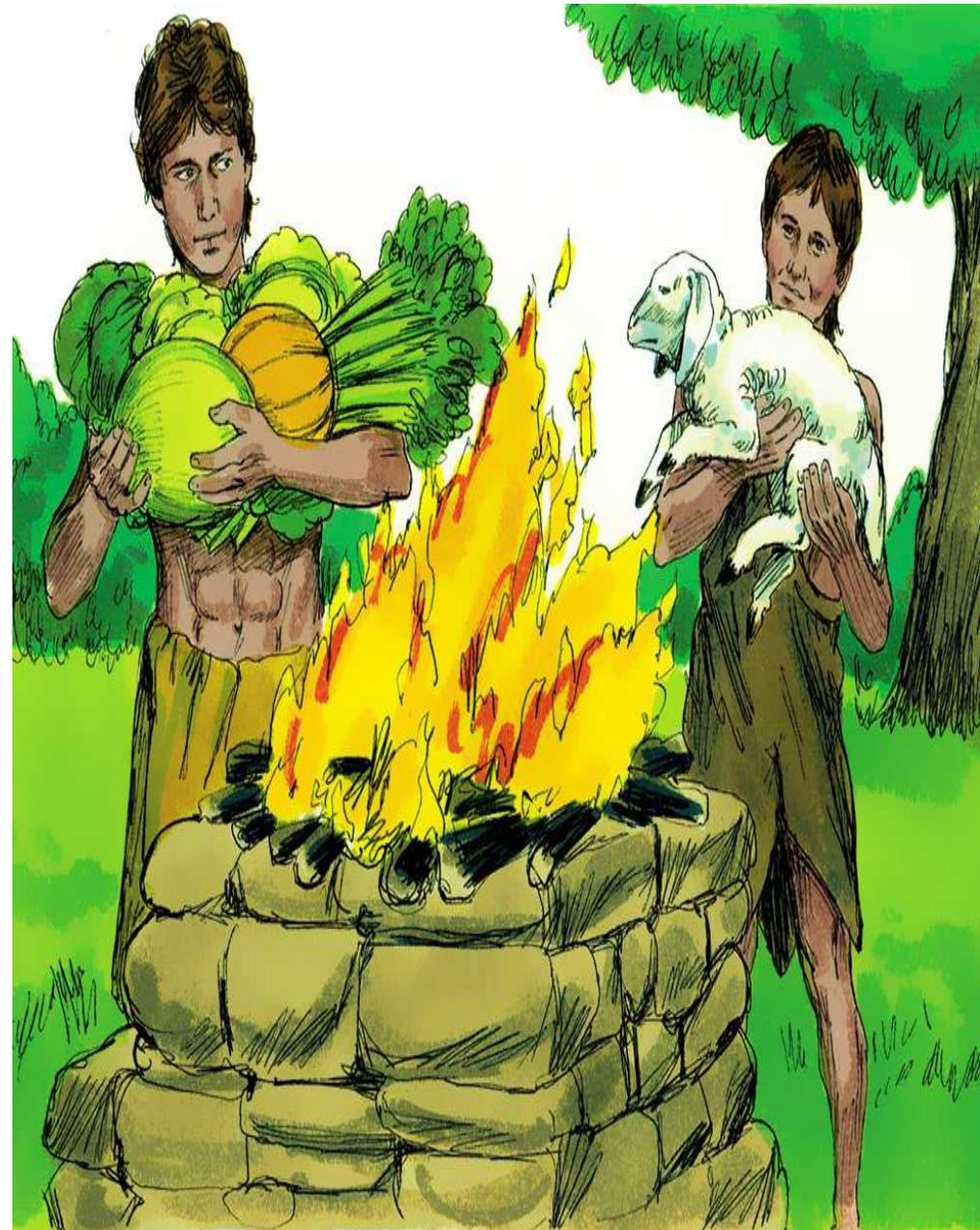


【二つのささげ物】創世記 4:3～5

ある時期になって、カインは、地の作物から【主】へのささげ物を持って来たが、アベルもまた彼の羊の初子の中から、それも最上のものを持って来た。

※ある時期の終わりに ...

定期的に献げ物がされていた。



【二つのささげ物】創世記 4:4～5

【主】はアベルとそのささげ物と
に目を留められた。

だが、カインとそのささげ物には
目を留められなかった。それで、
カインはひどく怒り、顔を伏せた。

※激高したカイン

...怒りやすい人だった？

...神への反抗は、

さらなる神への怒りを生む



【異なる二つの結果のわけは？】

■あがないの原則

...血は血によってしかあがえない。

■神へのささげ物は、 動物の犠牲でなければならない。

...あがないの原則と、
人の罪の重さを教えるもの!!

■カインは、分かっていた!!

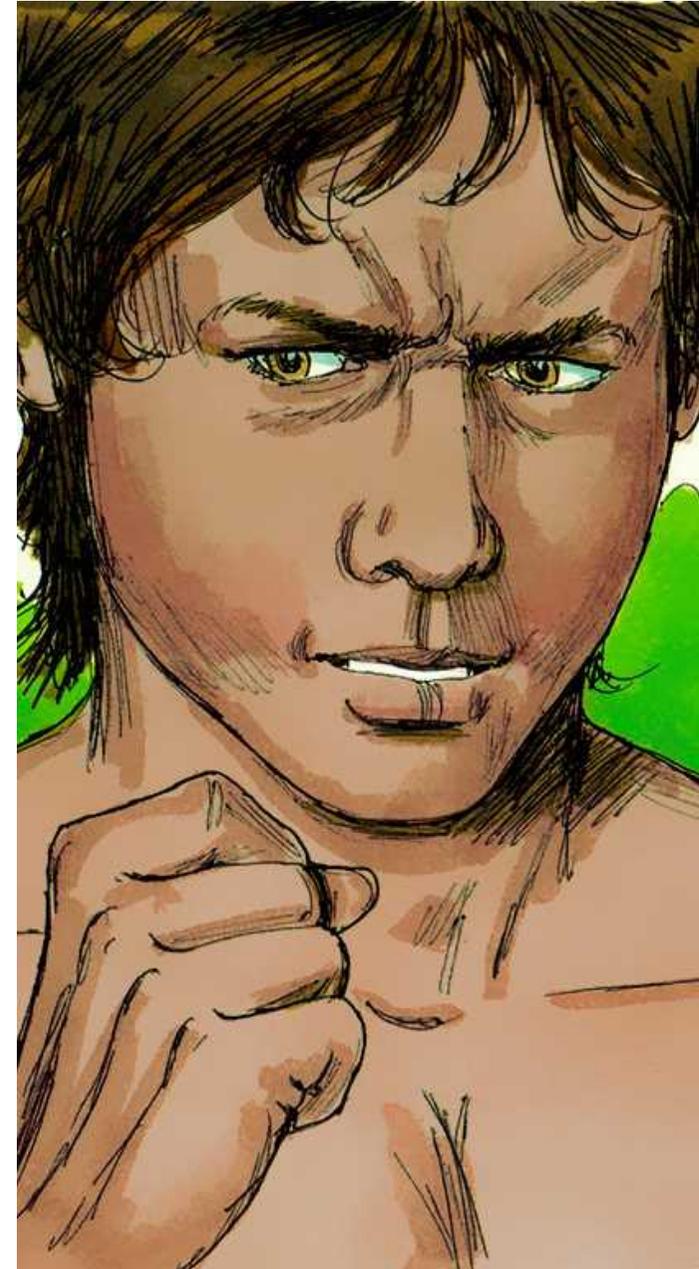
弟から動物を得ていたはずだが...。
すでに弟への確執を抱いていた？



【神の警告】 創世記4:6～7

そこで、【主】は、カインに仰せられた。「なぜ、あなたは憤っているのか。なぜ、顔を伏せているのか。あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、**罪**は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」

- ・殺意を抱いたカインに、神は警告した。
「罪」という言葉は、ここが初。



【神の警告】 創世記4:6~7

そこで、【主】は、カインに仰せられた。
「なぜ、あなたは憤っているのか。
なぜ、顔を伏せているのか。」

※殺意を抱いたカインに、
神は直接、呼びかけられた。
憐れみの主からの悔い改めの機会。

■神の問いかけを受けたなら、
立ち止まって、自らを振り返るべき。



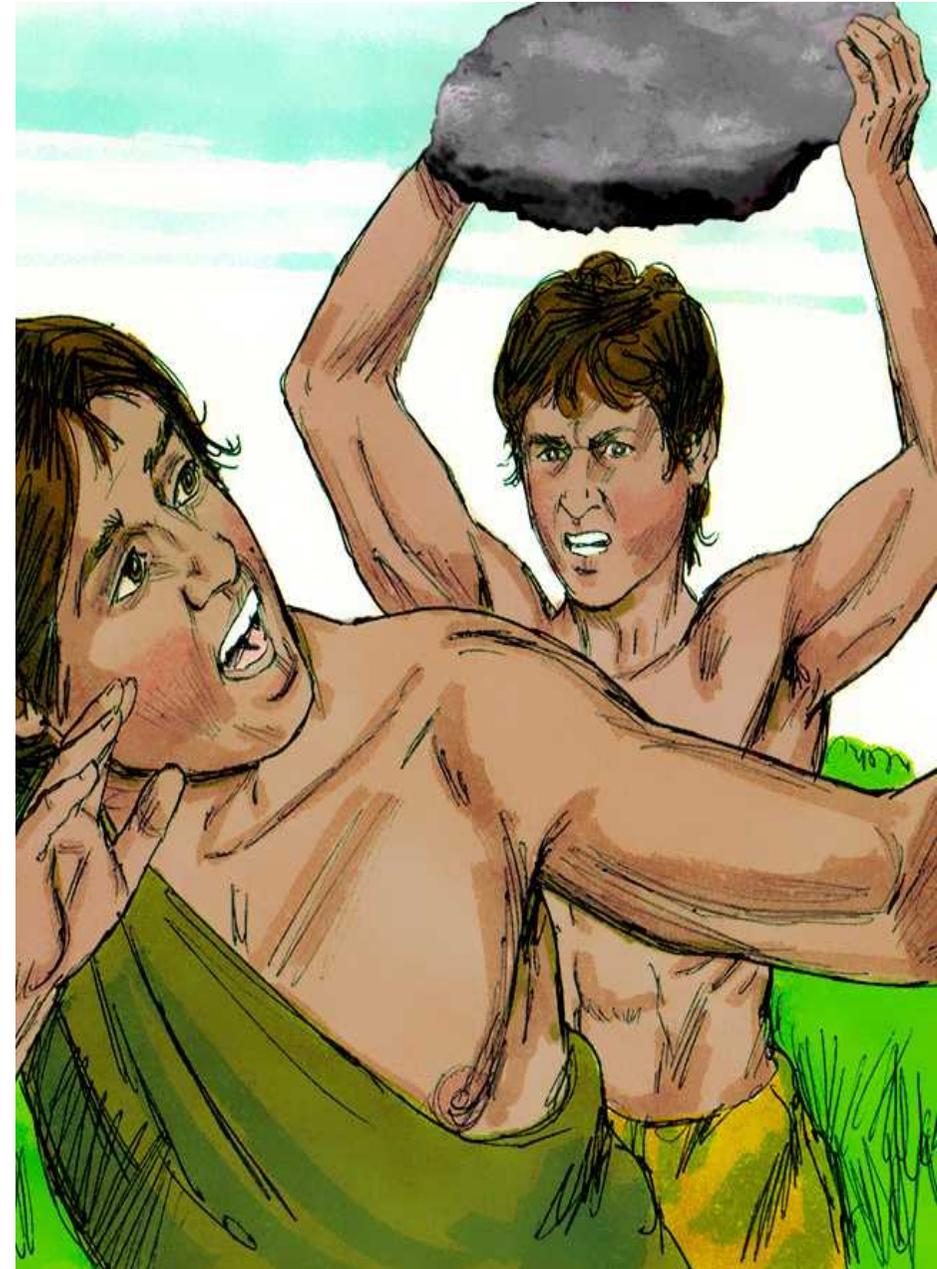
【最初の殺人】 創世記 4:8

しかし、カインは弟アベルに話しかけた。「野に行こうではないか。」そして、ふたりが野にいたとき、カインは弟アベルに襲いかかり、彼を殺した。

※最初の殺人は、計画的犯行。

※人目を気にしているカイン

...アダムのエバの子孫が、
かなり増えていた？



【最初の殺人】 創世記 4:9

【主】はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。カインは答えた。「知りません。私は、自分の弟の番人なのではないですか。」

※罪を犯したアダムにも。

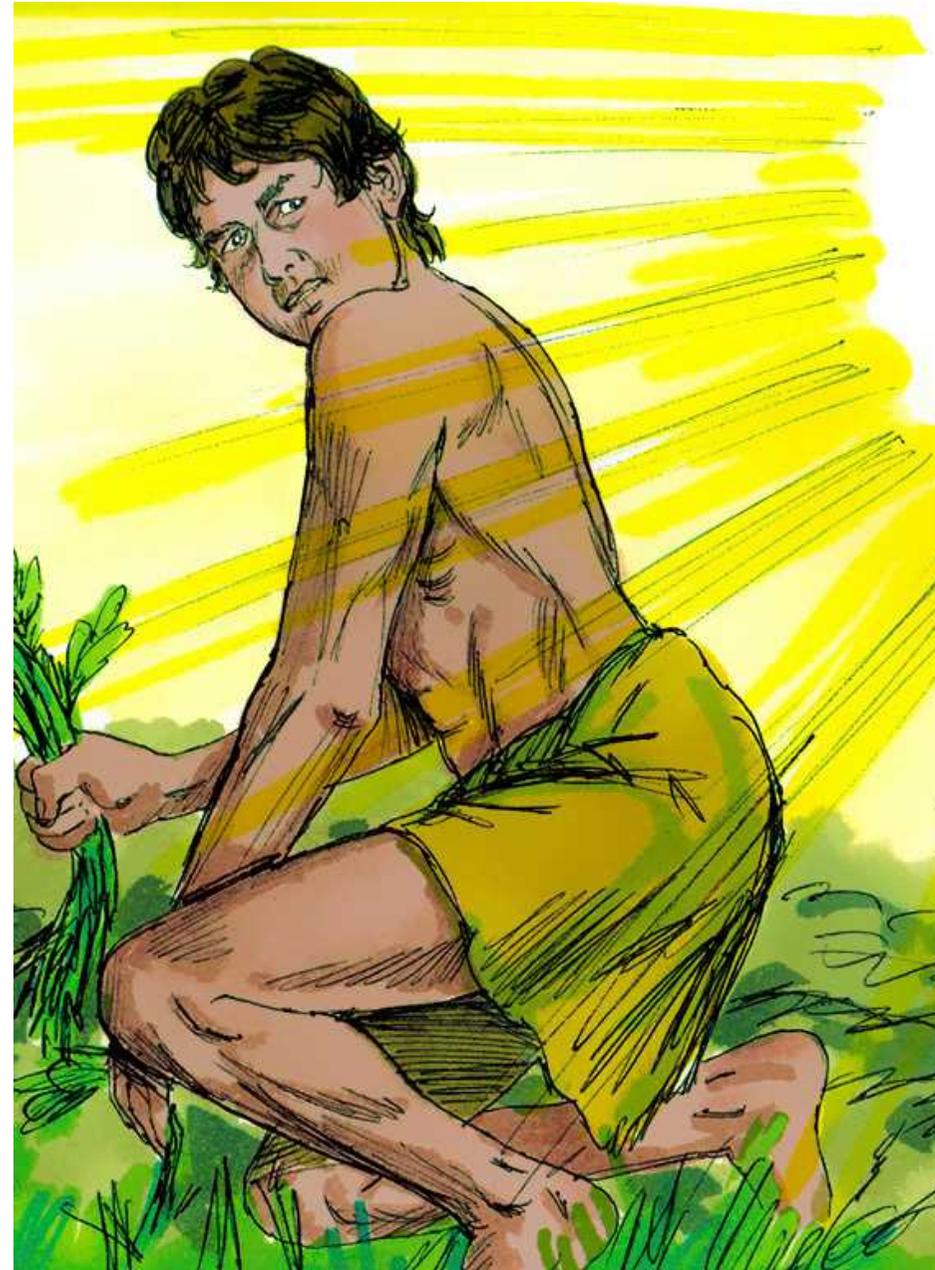
⇒告白の機会を与える神。

※「知りません」

...存在そのものへの強い拒絶。

殺意の根。

⇒神への反抗・罪の根源



【殺人による呪い】 創世記 4:10~12

そこで、仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。聞け。あなたの弟の血が、その土地からわたしに叫んでいる。今や、あなたはその土地にのろわれている。その土地は口を開いてあなたの手から、あなたの弟の血を受けた。

それで、あなたがその土地を耕しても、土地はもはや、あなたのためにその力を生じない。あなたは地上をさまよい歩くさすらい人となるのだ。」

※「呪い」とは、神の祝福を失った状態。

➡「闇」とは、光がない状態。

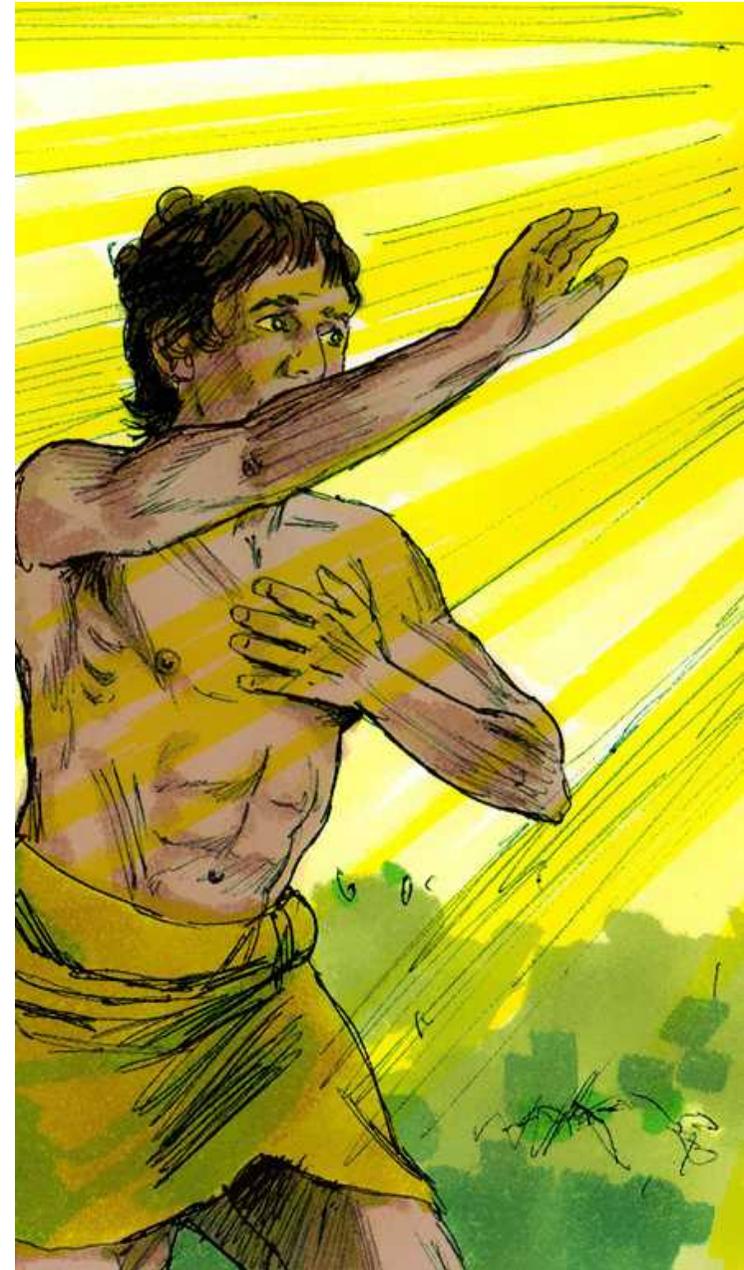
※神の恵みを拒み、耕作地を失ったカイン。



【カインの嘆き】 創世記4:13

カインは【主】に申し上げた。「私の咎は、大きすぎて、にないきれません。ああ、あなたはきょう私をこの土地から追い出されたので、私はあなたの御顔から隠れ、地上をさまよい歩くさすらい人とならなければなりません。それで、私に出会う者はだれでも、私を殺すでしょう。」

※罪の結果が「死」＝“神との断絶”
アダムとエバは樂園を追放され、
さらにカインは、放浪の身に!!



【カインの追放】 創世記4:15～16

【主】は彼に仰せられた。「それだから、だれでもカインを殺す者は、七倍の復讐を受ける。」そこで【主】は、彼に出会う者が、だれも彼を殺すことのないように、カインに一つのしるしを下さった。

それで、カインは、【主】の前から去って、エデンの東、ノデの地に住みついた。

※何かは不明。 ...神の守りのしるし。
それでも神の憐れみが。

■ 主の栄光が宿るエデンの園から、
さらに離れた東の方へ。



Ⅲ. カインの子孫たち

創世記4:17~25



【カインの子孫たち】 創世記 4:17

カインはその妻を知った。彼女はみごもり、エノクを産んだ。カインは町を建てていたので、自分の子の名にちなんで、その町にエノクという名をつけた。

※アダムとエバの子孫が増え広がっていた。
遺伝子の劣化もなく、近親婚も問題ない!!

※町を建てた ➡ 神の命令に反すること。



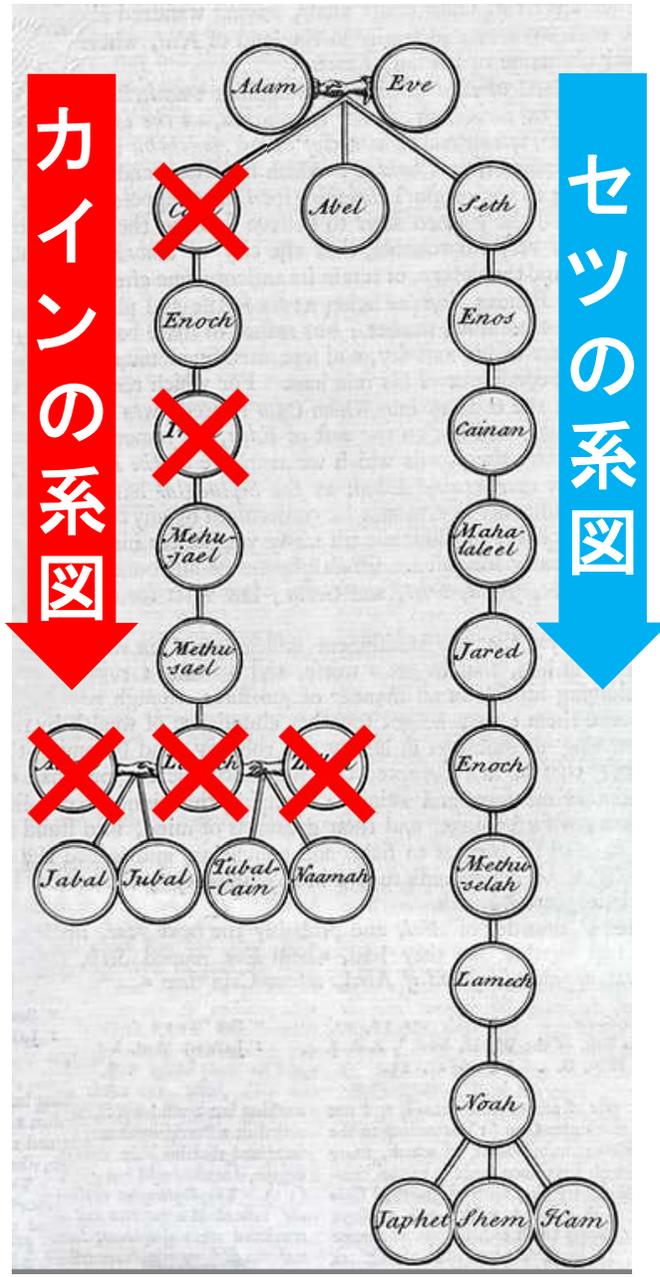
【カインに続く系図】 創世記 4:18～19

エノク(奉獻)にはイラデ(町の人)が生まれた。
 イラデにはメフヤエル(神は生かされる)が生まれ、
 メフヤエルにはメトシャエル(神の人)が生まれ、
 メトシャエルにはレメク(征服者)が生まれた。
 レメクはふたりの妻をめた。

ひとりの名はアダ(飾る)、他のひとりの名はツイラ(きらきら輝く)であった。

- 最初の系図 ➡ 聖書は、“歴史書”
 神に従う者と、背く者が入り混ざった系図。
 ⇒ 決定的だったのが、レメクの誕生。

※ 最初の一夫多妻



【都市と文明の起源】 創世記 4:20～22

アダ(飾る)はヤバル(作り出す)を産んだ。
ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。その弟の名はユバル(作り出す)であった。彼は立琴と笛を巧みに奏するすべての者の先祖となった。

ツィラ(キラキラ輝く)もまた、トバル・カイン(制作力を得た人)を産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる用具の鍛冶屋であった。トバル・カインの妹は、ナアマ(見目麗しい)であった。

- カインの家系から様々な産業が誕生。
遊牧、音楽家、鍛冶屋...
- 都市から、新しい文化が生まれてきた。



【レメクの詩】 創世記 4:23～24

さて、レメクはその妻たちに言った。

「アダとツィラよ。私の声を聞け。

レメクの妻たちよ。私の言うことに耳を傾けよ。

私の受けた傷のためには、ひとりの人を、

私の受けた打ち傷のためには、ひとりの若者を殺した。

カインに七倍の復讐があれば、

レメクには七十七倍。」

■ 聖書で最初の歌 ⇒ 神への反抗の歌。一人称多過ぎ!!

オレオレオーレ♪ オレ様の歌!!

...対句法の多用。A=B, A`=B`。強調されるのは、

暴力と恐怖による支配。自分の力。

■ 文明の高まりがより大きな暴力へ ...歴史的事実

例)産業革命は、史上最大の世界戦争へ。



Ⅲ. セツの誕生

創世記4:25～26



【セツの誕生】 創世記4:25

アダムは、さらに、その妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけて言った。「カインがアベルを殺したので、彼の代わりに、神は私にもうひとりの子を授けられたから。」

※アダム130歳の時

※セツ = “土台” 新しい家系の土台。

※神に従う義人だったカインの代わりに

■「女の子孫(メシア)」に続く家系は守られた。

神の計画への理解を深めたエバ。



【礼拝の始まり】 創世記4:26

セツにもまた男の子が生まれた。彼は、その子をエノシュと名づけた。そのとき、人々は【主】の御名によって祈ることを始めた。

※エノシュ = “朽ちる人”

※礼拝の始まり ...定期的に、公に。

■ 罪ある人間のはかなさを知ることが、神を見上げ、礼拝することのはじまり。



IV. まとめと適用

カインの道か セツの道か



【カインのたどった道】

①神の約束に従わなかった。

献げ物の原則を、よく分かっていたのに、拒んだ。

⇒意識的反抗。意図的罪。

②神に怒りを向けた。

非は自分にあるにも関わらず、神に怒りを向けた。

「罪は戸口で待ち伏せしている」 つけている隙を悪に与えた。

③殺人を犯した。

衝動的な犯行ではない!!

明確な殺意に基づく、計画的犯行。神への反抗の結末。

【カインと子孫のたどった道】

① **またもや、神の約束に従わなかった。**

放浪を命じられていたのに、定住して、町を築いた。

⇒これもまた、意識的反抗。意図的罪。

② **自分の力を誇った。**

町を築き、文明を生み出し、子孫を増やし、おごり高ぶった。

③ **多くの殺人を犯した。**

自分の力を誇示するために、殺人を犯した。

■ **他者の命を理由なく奪う殺人は、増大した支配欲の最悪の結末。
創造主に対する反逆の最悪のもの。**

【カインの道か、セツの道か】

■カインの道

➡殺人、神への欺き、追放、墮落、反抗...破壊、破滅。
(※根っこにあるのは、高慢) ⇒自分の力を誇る

■セツの道

➡罪を知る、むなしさ、無力さ、悔い改め、救い、祈り、礼拝。
(※根っこにあるのは、謙遜) ⇒神を讃える

【セツの道のその先に!!】

セツ ➡ ノア ➡ アブラハム ➡ イスラエル ➡ ユダ族
➡ ダビデ ➡ ...そして、イエス・キリストへ

- メシアへつながる系図の土台となったセツ
アダムとエバが、カインとカインの子孫を通して、
身をもって味わわされただろう、人の罪の底知れぬ深み。
- しかし、神は、二人にセツを与えられた。
神からの一方的な恵みである救いを、へりくだって受けとり、
ただ主に信頼し、仕え、歩んでいこう。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

これは、主(しゅ)が、一方的(いっぽうてき)にあたえて
くださった、はかりしれない恵(めぐ)みです。へりくだって、
味(あじ)わい続(つづ)けていくことができますように。

罪(つみ)の試(こころ)みから、おまもりください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」